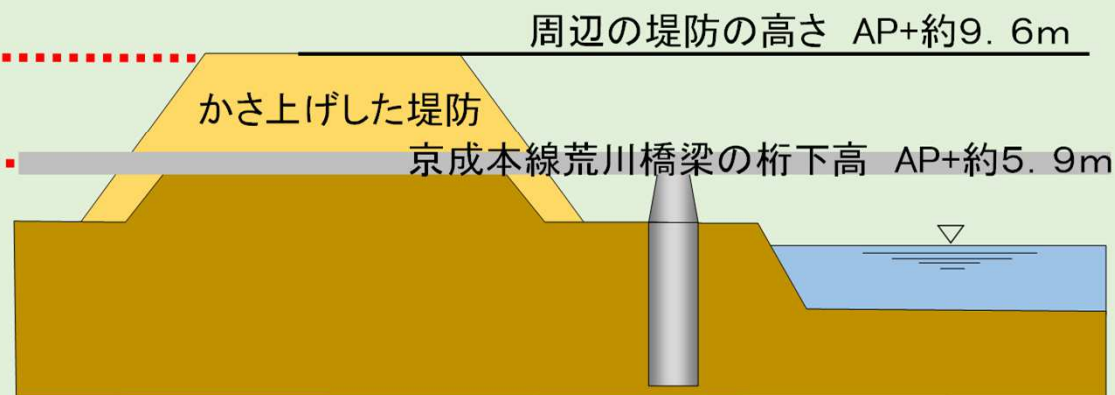


河川改修

- 京成本線荒川橋梁は、荒川放水路の開削工事の際に架設されました。その後、広域的な地盤沈下が発生したため、対策として堤防のかさ上げを行いました。橋梁及び周辺の堤防の高さは低いままとなっています。
- 現在、橋梁の桁下高は周辺の堤防の高さに対して約3.7m低く危険な状態となっています。
- 事業の目的は、洪水を安全に流下させるために堤防をかさ上げすることで、堤防のかさ上げに支障な京成本線荒川橋梁及び綾瀬川橋梁の架替工事を行うものです。

京成本線荒川橋梁の桁下高は 周辺の堤防の高さに対して約3.7m低い

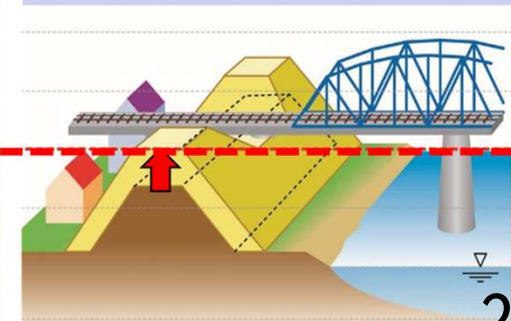
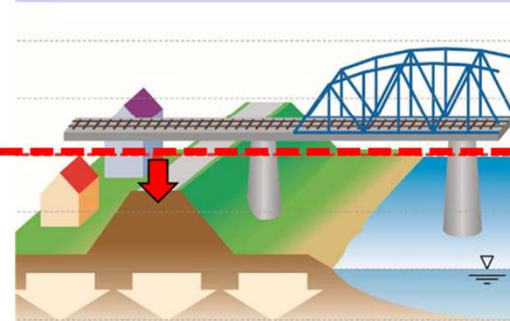
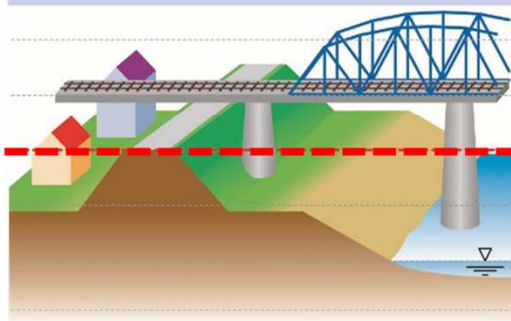
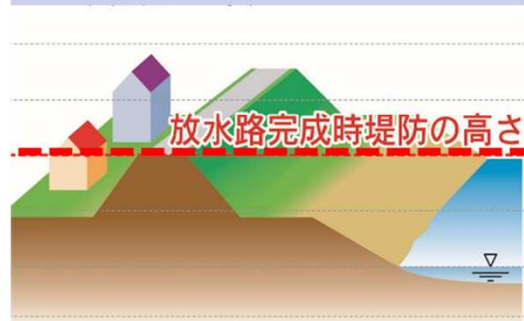


荒川放水路完成
(昭和5年)

京成本線荒川橋梁完成
(昭和6年)

地盤沈下
(高度経済成長期)

堤防かさ上げ実施



令和元年東日本台風時の京成本線荒川橋梁

- 戦後最大雨量(3日間流域平均)を記録した令和元年東日本台風による洪水では、ピーク時の水位が橋梁の桁下高まで、あと約1.2mの高さまで上昇しました。
- 足立区・葛飾区は、連携、協力して水防活動を行うことを目的とした「京成本線荒川橋梁に関する水防協議会」を設置し、令和2年7月に、水防訓練等で周辺の堤防の高さに比べ低い堤防の部分に土のうを設置しました。

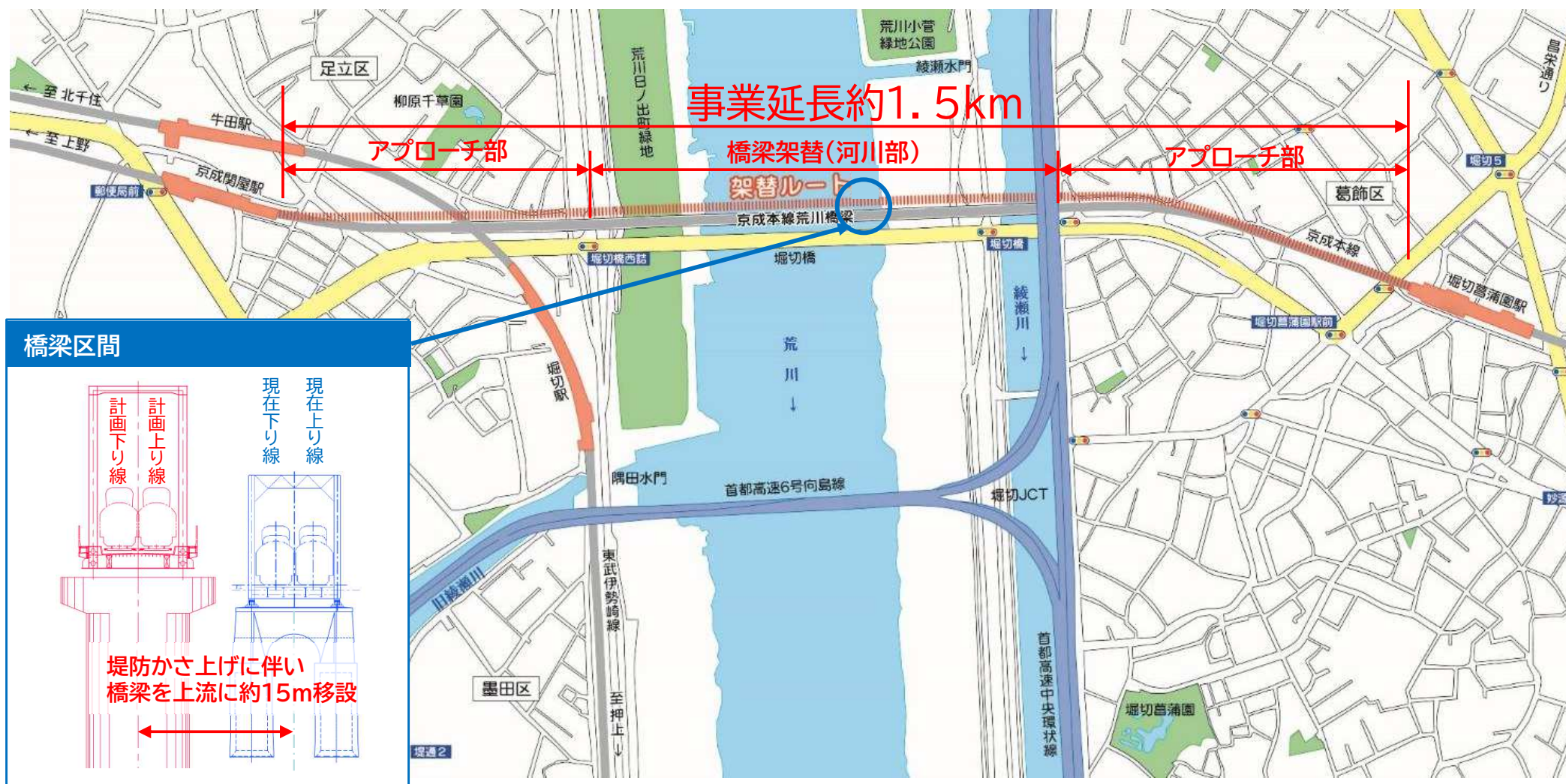


令和元年東日本台風時の状況



京成本線荒川橋梁 架替事業の概要

- 橋梁の高さが低く、洪水の安全な流下の阻害となっている京成本線荒川橋梁を約15m上流に架替えます。
- 新橋に切替えた後、現橋の橋台を撤去し、周辺の堤防の高さに比べ低い堤防のかさ上げ・拡幅を行います。
- 新橋への架替えに伴い、京成関屋駅から堀切菖蒲園駅までのアプローチ部の改良も行います。
- 令和4年度から京成本線荒川橋梁の架替工事に着手し、令和19年度に事業は完了する予定です。
総事業費は約730億円です。



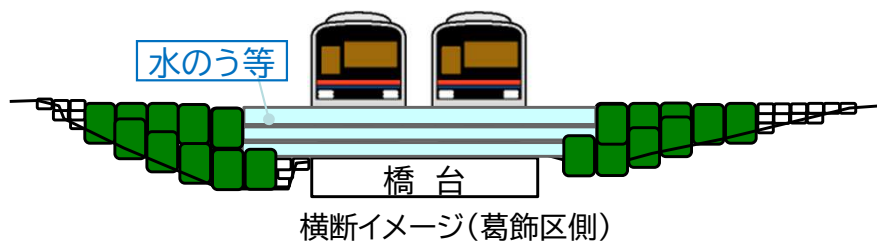
治水効果の早期発現(特殊堤(パラペット)による暫定施工)

○ 治水効果の早期発現のため、周辺の堤防の高さに比べ低い堤防の部分に特殊堤(パラペット)を設置する暫定対策を実施しました。

令和元年東日本台風を踏まえ、令和2年度は、葛飾区・足立区により土のうを設置(軌道部分は水防活動により対応)



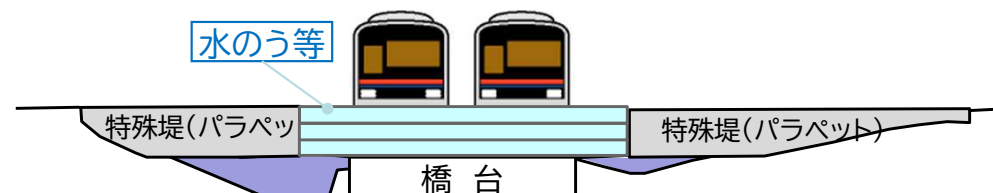
▲ 荒川左岸(葛飾区側)土のう設置状況



令和3年10月に周辺の堤防の高さに比べ低い堤防の土のう設置箇所に特殊堤(パラペット)が完成しました。(軌道部分は引き続き水防活動により対応)



荒川左岸(葛飾区側)に設置された特殊堤(パラペット)

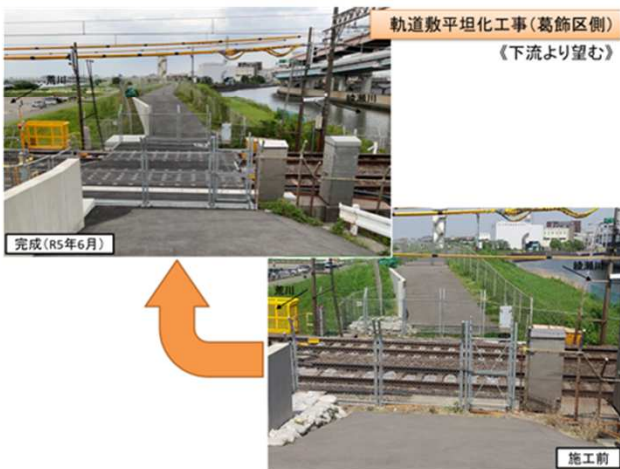


- 令和5年6月24日(土)午前1時から、京成本線荒川橋梁部において、足立区、葛飾区が水防訓練を実施しました。
- 鉄道事業者による線路閉鎖後、各区長の作業開始指示により、水防活動手順書に基づき越水防止対策を設置、橋梁架替工事との連携(資機材搬入路として軌道敷を平坦化)により、資機材の搬入や止水板設置作業の効率化が図れました。

【足立区】



【葛飾区】



河川部

荒川右岸堤防～綾瀬川橋梁

事業前(現況写真)



事業後(イメージ図)



荒川橋梁構造形式(トラス橋)

- 【構造】 3径間連続鋼下路トラス鋼床版桁
- 【橋長】 435m(支間長 121m+193m+121m)
- 【下部】 鉄筋コンクリート壁式橋脚
- 【基礎】 鋼管矢板基礎(φ1000)

足立区側

京成関屋駅～荒川右岸堤防アプローチ区間

事業前(現況写真)



事業後(イメージ図)



葛飾区側 綾瀬川橋梁～堀切菖蒲園駅アプローチ区間

事業前(現況写真)



事業後(イメージ図)



- 河川整備計画の目標である昭和22年カスリーン台風と同規模の洪水を安全に流下させるため、河道掘削により京成本線荒川橋梁付近で約20～30cmの水位を低下させるとともに、その他の治水対策を併せて実施。
- 河岸部の河道掘削にあたっては、満潮時に冠水する程度の高さに整備し、荒川下流部にかつて存在していた多様性のある湿地環境の再生を目指します。

河道掘削の効果

約20～30cmの水位低減効果※

河道掘削前の洪水時水位

河道掘削後の洪水時水位

ヨシ原の保全・再生

満潮時の水位

河道掘削(高水敷部)

河道掘削(河岸部)

河道掘削(川底)

河道掘削(高水敷部)

■野球場・グラウンド等については、再整備が可能な高さまでの掘削となります。

河道掘削(川底)

※S22カスリーン台風規模洪水での京成本線荒川橋梁付近での計算値

ヨシ原・干潟などの湿地環境のイメージ



ヨシ原・干潟の代表的な生き物であるヤマトシジミ



ヨシ原の保全・再生事例
(江戸川区小松川地先)

○ 荒川の河口から堀切橋までの区間において、高潮堤防の断面形状に対して高さ又は幅が不足している区間等について、堤防のかさ上げ又は拡幅を実施します。

